

院生40人を助手に雇用

青山学院大 文系の研究者育成

青山学院大学は2020年度から博士後期課程学生の約40人を院生助手として雇用する新制度を始める。学部生の授業補佐に對して月給16万円で、履歷書に教育歴として記せるため就職時の後押しになる。同大は英米文学や史学など文系の研究職の志望者が多く、学生の研究費支援でも採択は文系が理系の2倍だ。学生を雇用する制度は研究大学の一部の理系であるが、同大は文系の若手研究者育成を意識して全学で実施する。

新制度の対象は11学部、実際の運営など、修部の入学定員に合わせ、士学生によるティーチングアシスタント（T）を多用した。博士（A）より高度な補佐業を優先しつつ、学務を行う。指導教員の研究を優先し、国務対応にならないよう、雑務対応にならないよう、大学は給与のほか社

大学院の研究科名	人数
文学研究科	35
社会情報学研究科	17
理工学研究科	14
国際政治経済学研究科	14
その他	52
計	132

会保険料、超勤手当、通勤費手当（学割使用後の分）などに対応する。教員増となり、きめ細かな教育の指標となるST比（学生・教

青山学院大の青山キャンパス（同大提供）



院生（博士前期課程を含む）の国際学会発表の渡航費支援を開始。最大15万円、最大60人で進めている。

一方、若手研究者向けの「アーリーイグレル研究支援制度」を17年度に開始しており、競争率約3倍と人気が高い。18年度予算は計1000万円で22件を採択。「助手・助教1人に年70万円」の支援は理系が多いが、「博士後期課程学生に25万円」のケースは、文系が理系の倍で採択されている。

員比率）がよくなるメリットもある。今春からの博士後期課程1年生には、給付型奨学金の形で授業料免除を始めており、この対象外となっている学生を新制度で支援する。また19年度には大

め細かな教育の指標となるST比（学生・教員比率）がよくなるメリットもある。今春からの博士後期課程1年生には、給付型奨学金の形で授業料免除を始めており、この対象外となっている学生を新制度で支援する。また19年度には大